

角田山・大源太山山行報告書

(山域) 新潟の山 (角田山・大源太山)
(コース) 下記個別山行報告参照
(日時) 10月31日(土曜日)～11月1日(日曜日)
(天候) 下記個別山行報告参照
(参加者) CL:内堀(記録)・SL:岸野・佐藤・小宮山
(山行タイム) 下記個別山行報告参照

(角田山山行報告)

(日時) 10月31日(土)

(コース) 稲島(とうじま) 登山口～角田山～灯台コース登山口

(天候) 小雨のち、曇り・時々晴れ

(山行タイム) 稲島登山口 8:27～角田山 9:28～灯台コース登山口 11:00

千葉を出発した時には星も見え、晴天を期待したが、天気予報通り関越道の越後湯沢で小雨が降り、三条辺りではドシャ降りになり、本日山行が出来るが心配したが、中の島見附ICを降りて、道の駅「パティオにいがた」に到着した時には、小雨になり、大きな東屋でテントを張り、皆で軽い宴会をして4:00頃就寝した。朝早く6:00頃にラジオ体操をする人達がここ東屋に集まり、始める準備をされていて、片付けて欲しいとの外から声で起こされてしまった。

去年の定例山行できた時も同じだった事を思い出した。ここは気をつけよう。火・木・土曜日がラジオ体操の日で集まる日である事を記憶に留めておこう。車を出発させ角田山登山口に向かうが雨は一向に止む気配なし、困ったもんだ。道を間違えながらようやく稲島登山口に到着した。車は数台あった。準備を済ませ出発、階段が続き何処まで続くのかと思いきや最後まで階段であった。途中見晴らしの良い場所で休憩を挟み1時間程度で山頂に到着した。登山口より紅葉が見え雨の雫で紅葉が更に映えていた。山頂はガスの覆われており、記念撮影終了後は急いで下山を開始した。本日のイベントコースである灯台コースを下山するが、灯台や海が見えるか心配になるが、少し下山した所で海が見え始め、更に下山をすると灯台が見え始めた。右側(新潟市内方面)は雲が無く、弥彦山方面はガスが掛り丁度、角田山を境にして右方向は青空が時折見え始め、我々の下山を待ち構えていた様である。何度来てもこの灯台コースは美しい。今回は紅葉と日本海・遠くは佐渡島、右を向けば新潟方面の湾岸線が見える。正面は何時もの如く灯台である。

何枚か写真に収め灯台に到着した。バス通りまで歩きタクシーを呼び、稲島登山口まで行き、車を回収して、道の駅「国上」の中にあるてまりの湯に入り、汗を流した。

さっぱりした後、スーパーで買出しを行い、本日の宿泊地まで高速道路に乗り、湯沢ICで降りて、大源太キャニオンキャンプ場に到着した。16:00頃、

急いでキャンプ場手配を済ませたが、本日このキャンプ場に泊まる客は我々のみであった。

到着した頃は観光バスや車が沢山あったが、18:00頃には誰もいなくなった。静かなテント泊で途中雨が酷く、翌日の山行が危ぶまれたが朝方は雨も止み雨に打たれた紅葉が眩しかった。

宴会では買ったワイン4本分をもう少しで飲み切る所であった。今回のメンバー私以外は全て社長業をされている方で、ちば山の幅広さを実感した。

この日は、パソコンの話に華が咲き楽しいひと時を過ごせました。



(大源太山山行報告)

(日時) 11月1日(日)

(コース) 大源太キャニオン林道終点～大源太山～林道終点

(天候) 曇りのち晴れ

(山行タイム) 林道終点 7:23～大源太山 10:15～林道終点 13:15

夜中のテントに打付ける雨の音で何度も目を覚まして、ひょっとして中止かと思いながら2度寝・3度寝を繰り返した時には5:15頃と寝坊をしてしまった。慌てて朝食の準備を済ませ、出発の準備をするうちに雨が止み、出発時には雨は止んでいた。車で大源太山登山口の林道終点まで向かう。車は1台あった。準備を済ませいざ出発である。雨に当たった紅葉が丁度良く美しい。

夜中の雨で渡渉が心配されたが、何とかクリア出来た。何人かは渡渉時に滑り靴を少し濡らしたようである。初めは緩い勾配が続き、渡渉2本目を越えたあたりから勾配が強くなり、途中山頂が見えるポイントでは薄化粧をした大源太山が聳えている。夜中の雨は、山頂付近は雪に変わったのであろう。気を引き締めて更に登り、休憩を挟み尾根に到着した時には、山頂の雪はハッキリ見えた。この急斜面なので下りが心配だなと思いながら進み続け、ようやく山頂に到着した。

途中、単独行に抜かれ、更にその上で下山してくる単独行に合った。

山頂から見る谷川岳や近くに見える七ッ小屋山がドーンと見える。カッコいいな。

風もないので、山頂でお湯を沸かし暫し休憩タイムに入る。時間とともに雲が取れてきて周りの景色が良く見えるようになり、本日登って来た疲れが報われるものである。

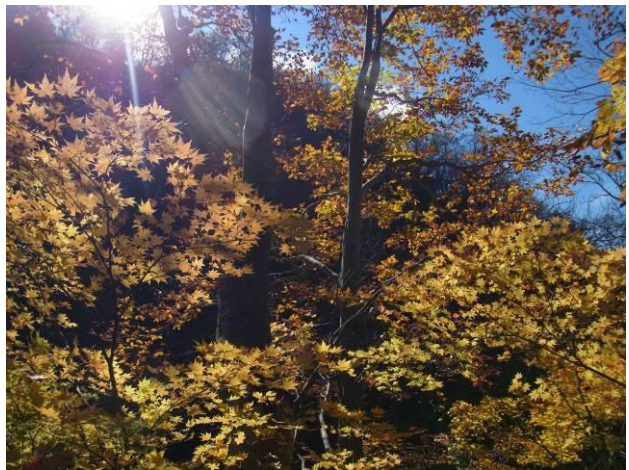
休憩後は、急坂を慎重に下りるだけであった。途中、2パーティと会い挨拶する。この時期は、登る客がダンダンに減って来ている。今日の雪化粧から上越地方も本格的に雪山到来である。

今度からは、アイゼンを忘れずに頭の隅に記憶しておこうと思った。

無事下山も終了して、湯沢市内で共同浴場(温泉)に入り汗を流し、遅い昼食を取り帰葉する。

この時期の関越道は渋滞にハマリ、開通したばかりの鶴ヶ島JCTから圏央道に入り、東北道経由で1時間遅れ程度で帰ることが出来た。関越道の抜け道としては意外と使えると感じた。





以上